

写真と地域の文化振興進めた25年間に評価

写真の町・東川町が文化庁長官表彰を受賞

本町が21年度文化庁長官表彰(文化芸術創造年部門)を受賞しました。「写真文化と地方行政の融合」という独自の文化創出を通じて地域の活性化に生かしてきた」と四半世紀の取り組みが評価されました。

表彰は19年度に創設されました。3年目の受賞自治体には、仙台市(宮城県)、別府市(大分県)、中之条町(群馬県)、とともに選

ばれました。本町は、中之条町とともに、全国自治体の町村で初受賞、道内自治体としては札幌市に次いで2番目の受賞です。3月29

日、文化庁(東京)で表彰式が行われ、松岡市郎町長が出席しました。

選考理由として、次のように評価されました。

「町制施行から100年に満たない若い町の地域文化の振興と、歴史の浅い写真文化の発展とを重ね合わせることで、独自の文化を創り出し、写真文化を通じて地域全体が心豊か



昨年の写真甲子園本戦大会から



国際写真フェスティバルストリートギャラリー展(昨年8月1日)

な暮らしを育もうと、昭和60年に、写真と地方行政という異なる分野の融合、そして世界に開かれた町を指し、他の自治体に例のない『写真の町宣言』を行った。

宣言を行った昭和60年からプロの写真家、愛好家と住民が写真を通じて交流す

る東川町国際写真フェスティバルの開催や、日本で初めて、自治体が写真作家を顕彰する『東川賞』

を制定し、写真文化の振興に貢献するとともに、過去の作品を顕彰の対象作品とし、作品の再評価を行う新しい試みも実施している。

また、平成6年には『写真甲子園』を創設し、高校生に、サークルで活動する機会を提供するとともに、若年層の写真技術の向上を図っている。毎年7月に行われる本戦を目指し、全国から集まった高校生が町民宅にホームステイしながら奮闘する様子は、写真に真摯(し)に打ち込む高校生



昨年の国際写真フェスティバルインディペンデンス合評会

とそれを温かく見守りサポートする地元住民との文化交流として、多くのマスメディアで取り上げられている」と紹介されています。

同部門の表彰は、初年度横浜(神奈川県)、金沢(石川県)、近江八幡(滋賀県)、沖縄(沖縄県)の4市、翌年度は札幌(北海道)、豊島区(東京都)、篠山(兵庫県)、萩(山口県)の4市がそれぞれ受賞しています。